**神宮寺：雪の中の寺**

町の北約3キロの杉林の中に、807年に創建されたとされる由緒ある禅寺、神宮寺がある。茅葺き屋根が特徴的なこの寺院と、その威厳ある山門は、仏教寺院の建造物の中でも際立っている。

何世紀にもわたり、住職たちは太陽とともに起床し、観音堂への道を整えてきた。夏には苔むした石畳のゴミを掃き、冬には雪を踏み固め、参拝者が観音堂にたどり着き、慈悲の菩薩である観音様に祈りを捧げられるようにするのだ。この寺の本尊の観音像は「千手観音」と呼ばれ、新潟県指定文化財で、7月に3日間だけ公開される。

現在の観音堂は1780年代、高さ15メートルの山門は1760年代のものだ。北に位置する海岸沿いの町、出雲崎から集められた名工たちによって建てられた。特に観音堂は、屋根の勾配が非常に急で、入母屋造の正面千鳥破風附が特徴的である。この形状は優美であるだけでなく、雪が積もり、その重みで屋根が押しつぶされるのを防ぐのに役立っている。

寺院の構造が長持ちするのは、地域社会の絶え間ない尽力と手入れがあるからで、雪で傷んだ茅は毎年葺き替えられている。秋になると、参拝者は春の修理に備え、茅の束が干されているのを目にすることだろう。